第26回 広島道産子会総会・懇親会

顧問　小西　将（古小牧市出身）

平成29年11月3日、メルパルク広島を会場に第26回総会が開催されました。

当日は76名の参加で、総会では、会則第三条の変更（5．学生会員【大学生】は年会費を免除する）が審議され承認されました。これは、広く会員を募る上で必要との判断からでした。それから、山崎ご夫妻が高齢者表彰を受賞されました。おめでとうございます。長く当会の発展にご尽力されました事、お礼申し上げますと共に今後もよろしくお願い致します。その他、次年度の事業計画・予算計画書の承認を受け、その他特に案件事項もなく進行・終了し懇親会へと進みました。

今回の総会は、道南地区（雄島・桧山・胆振・日高）が担当。

当日は多くのメーカーさんからたくさんの協賛品を頂き、お楽しみ抽選会は二回りもする程でした。皆さん大変ご満足で、喜んで頂いたようです。この場を借りてご協賛各社様に御礼申し上げます。

また、今回初めて企画した会員有志による余興「ひょっとこ踊り」が披露されました。

踊るほうも見るほうも大変な盛り上がりで楽しい一時となりました。

東広島支部「新年の集い」開催模様!!

ふるさと交流委員会担当　児玉　武男（幌延出身）

昨年（平成29年2月）に続き2月11日（日・祝建国記念日）、当市西条町「憩いの料亭白竜湖」に於いて、29名の会員・有志が集まりました。

朝方は小雪がチラつく空模様でしたがスタート時点では新年祝賀の集いとしては素晴らしい日和となりました。

宴会に先立ち平野東広島支部長（余市）から「熱烈歓迎」の挨拶。

本部会長代行の藤原くに子副会長（津別）からは、会員同士のコミュニケーションと会の発展の意義について挨拶がありました。

乾杯の音頭は、山崎顧問（滝ノ上）から市の条例を受けて「西条酒」で高らかに唱和発声されました。

この集いに花を添えて頂いたのは、鍵下特別会員のご厚意によって交流が生まれた①マリンスターズの皆さん（7名）と、②平野支部長のご縁で生まれたフラ・ナーメア・フラ・オカ・プアメリアのフラダンスの皆さん（12名）でした。生演奏をバックにヒートアップしました。会員の皆さんもよく知っている歌が次々と演奏されました。「君といつまでも」、「憧れのハワイ航路」、「高原列車は行く」、「丘を越えて」、「北国の春」、「知床旅情」、ラストは「ふるさとは遠い北国」を全員合唱で盛り上がりました。

宴会のトリは支倉幹事（津別）によるどさん子応援歌シュプレヒコールや一本締めを。蓼原秀子相談役（留辺蘂）の謝辞と閉会の言葉を頂き3時間に及ぶ集いの幕を閉じました。

参加された皆さん方の健康と会の発展を念じつつ散会しました。

皆さん、ありがとうございました。

第23回「全国都道府県対抗男子駅伝」

郷土ランナー かく戦えり

ふるさと応援委員会応援団長　三上　了一（札幌市出身）

冬季オリンピックでの道産子選手大活躍の興奮も冷めやらぬなか、少し遡って1月の第23回都道府県対抗男子駅伝での、郷土ランナーたちの活躍についてお知らせします。総合順位は28位で昨年を一つ上回る結果でした。選手諸君の健闘を讃えるとともに沿道で熱いご声援を頂いた皆様に応援団長として厚く御礼申し上げます。

今回は、大会直前にチームの大黒柱、菊地選手（コニカミノルタ）が痛恨の故障参加辞退となり、さらに直前合宿で斬り込み隊長の金橋選手（札幌山の手高校）も故障欠場とアクシデントが重なり、チームはこれまでにない試練に立ち向かうこととなりました。（コリャーやばいんでないかい。ソーだねェーーー）

ところがドッコイ、そうはイカナイ。急遽、駆けつけてくれた、高橋優太選手（ＤｅＮＡ）を中心にチームは一丸となり、サポートメンバーを含めた全員が道産子らしいみごとな駅伝レースを今年も展開してくれました。

なかでも、まず目立ったのは中学生選手の二人です。2区の辻本選手（士別中）は区間14位で7人抜き・6区の酒井（白糠中）選手は区間8位で4人抜きの快走で、困難な状況にあるチームを若い力で支えてくれました。

また、3区の小松選手（東海大）は、高校時代も含めて3度目の都道府県駅伝ですが、これまで出場機会には恵まれませんでした。今回はかつて、太田・菊地といった先輩たちが区間賞の軌跡を刻んだ海沿いの道を力走し、5人抜きでレースを作ってくれました。宮島線立体交差の坂道を駆け登ってゆく後姿が、「今日の3区ナンバーカード1番は俺だ。」と誇らしげでした。

そして、何と言っても今回のヒーローはこの人。ニューイヤー駅伝での区間2位の活躍の後にもかかわらず、郷土チームのピンチを聞いて、二つ返事で出場を決意してくれた高橋優太選手です。たぶん、調整もへったくれもなかったでしょう。でも、彼がいなければ今回の成績はあり得ませんでした。全く、よくあの状況で快く引き受けてくれたものだと思います。彼の走りについては言うまでもなく、長距離選手としての一挙手一投足が、若い選手たちに大きな影響を残したことでしょう。なんとなく元カープの黒田投手に姿がダブります。

彼は中学生まで長距離走とクロスカントリースキーの二刀流で、どちらかも将来を嘱望されていました。その後、仙台育英高校から城西大に進み社会人の名門S&B食品を経て現在に至る実力選手ですが、ナンバーカード1番をつけて走るのは、以外にも今回が初めてでした。「また、いつでも呼んで下さい。」と嬉しいことを言ってくれました。

もちろん、都道府県駅伝誕生以来、これまでの北海道陸連関係者の皆様の、地道なご努力により、北海道陸上の選手層が分厚くなったことが、今回のアクシデントを跳ね返す原動力だったことに疑いの余地はありません。今回のコーチ陣には都道府県駅伝チームのＯＢが二人も参加され（大井コーチ　高校生時代第3回大会選手・尾方コーチ　中学生時代第3回大会選手）それぞれ、経験を生かしたご指導に手腕を振われました。鹿内監督以下コーチ陣、そして選手諸君のご家族や先生方にもこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

それから、菊地選手。今年は11年連続出場の大会記録がかかっていたのに、誠に残念です。これまで10年チームを支えてくれてありがとう。人生山あり谷あり。無理は禁物。故障をじっくり克服して下さい。会員一同、再び広島に「羊蹄山の風」が吹くのを待ってます。

最後になりましたが、もうひとつ。駅伝を含め多くのスポーツで大事なのが「応援の力」です。偉大なアスリートたちが「応援の声は確実に聞こえる。そして力になる。」と口を揃えます。会員の皆様には来年も暖かいご声援を宜しくお願い申し上げます。

駅伝ふるさとひろばでの郷土料理ブースと物産販売

平井　和行（札幌出身）

毎年恒例の「全国都道府県対抗男子駅伝」は、北海道チーム中高生選手の来広から始まった。

大会前日の開会式では、わが北海道チームが元気いっぱいに、会場でパフォーマンを披露してくれました。応援にも熱が入ろうというものです。

さて、大会当日は好天にも恵まれ、北海道ブースには朝早くから長蛇の列が続きました。物産販売（豆類・長芋）は、午前中に完売。

じゃがバターを食べた男性は「じゃがいもがホクホクで甘くとってもおいしかった」「ホタテのみそ汁は、からだがあたたまる！」との声もいただきました。

食べられた方みなさま満足そうな表情を浮かべていらっしゃいました。

郷土料理ブースでは、駅伝のスタート直後にホタテ姿焼きが売り切れ、レースが終了する前にすべての商品が完売となりました。

今年から前日のNHK前での販売がなくなり、当日1日だけの販売ということになり、仕入れ数量など調整に四苦八苦。しかしながら、広島道産子会の皆様がチームワーク良く、前日の仕込みから調理や販売まで、スムーズに運ぶことができました。ご協力いただいた方には感謝です。

また、洞爺湖町の5名の方々にも大変お世話になりました。

この場を借りてお礼申し上げます。

来年に向けて、仕入れ数量など慎重に確認したいものです。

また、みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

天皇杯 第23回 全国都道府県対抗男子駅伝 競走大会の物販研修に参加して

洞爺湖町農業振興課　八子　和行

思い返すと、昨年（平成29年）の6月、洞爺湖産業まつりに道産子会の皆さんが来られた折、私の拙い手打ちそばをご賞味いただいたことが皆さんとの初対面でした。

その後、町長からこの物販に指名され始めて参加することになりました。

1月の広島は雪が降ったこともあると聞いていましたので覚悟をしていたのですが、今年は1月とは思えない程暖かく、恵まれた天候の中、前日準備から当日の物販まで皆さんと行動を共にすることが出来ました。

天候にも助けられ、隣の青森ブースの迫力に圧倒されながらも用意した長芋や豆類もスムーズに完売できたことはとても良かったと思います。

ちょっと思ったのは、お釣り用の小銭ケースが欲しいなぁ。

最後に、毎年この駅伝大会に、広島道産子会の皆さんにご協力いただき、洞爺湖町から町職員及び農漁業者が物販に参加させていただいていることに感謝したいと思います。

いぶり噴火湾漁協虻田地区青年部　部長　福島　正和

広島市中区中島町平和記念公園に、天皇杯都道府県対抗男子駅伝会場に広島道産子会が行っている物産展のお手伝いに行きました。

20日午前中に厳島神社を見学した後、広島道産子会の三好さんと長崎会長と合流し、お好み焼きをお昼に頂きました。そばとうどんのミックスでとても美味しかったです。お好みソース激辛20もはまりました！

午後からは前日準備を三好さん宅で行いました。

北海道から来た僕らには、同じ1月とは思えない程暖かく、外でホタテをボイルしたり、ジャガイモをひたすら水で洗いました。

夜は三好さん宅で夕食を頂きました。美味しいお酒に、お鍋、お刺身、八子さんの手打ちそば、ゆずの漬物も美味しかったです。ご馳走様でした。

21日大会当日は、平和記念公園にて物産展を行いました。

私は漁師なのでいつも扱っているホタテの焼き手にまわりました。前日の下準備も良く、お客さんがどんどん来ても、すぐ対応ができて例年より早く完売できたようです。

私は、道外でのイベントは初めてだったので、広島県の人の反応はどうなのかな？焼きホタテ1枚450円では買う人なんて!?っと心配でした。でも、北海道のホタテが食べたい!!と行列ができ、喜んで食べてもらえるのが、とってもありがたかったです。

いつもホタテを採っている僕らには、ホタテは今もそしてこれからも無くてはならないものです。このホタテを、こんな遠く広島の地で、待っていて下さる人がいるのをこのイベントに参加して気づき知ることが出来ました。

そして一緒にホタテを売ってくれた道産子会の嶋津さんの「喜んでぇ～!!」の声に驚き、お客さんに対する気持ちの持ち方を教わりました。

夜は選手との懇親会に参加させてもらいました。道産子会の皆さんともゆっくりお話しできたし、何といっても選手への激励の歌♪おーい！おーい北海道～♪の大合唱に大感動!!広島道産子会の郷土愛に心を打たれました。私も同じ道産子として、広島道産子会の皆さんに負けない様に誇りを持って美味しいホタテを育てていこうと思います。

また、来年も参加出来たらと思います。

広島道産子会の皆さん、お世話になりました。